

がかぶさり、貧弱である。遡行を開始して15分程で二俣に到着。この上部はスケールは小さいがナメとなっている。次に3m, 2mと小滝が出てくるが、あとは沢が分かれ、源頭となってしまふ。ヤブがかぶさり、水もなくなった所で遡行終了とする。所要時間は30分程であった。 (記・)

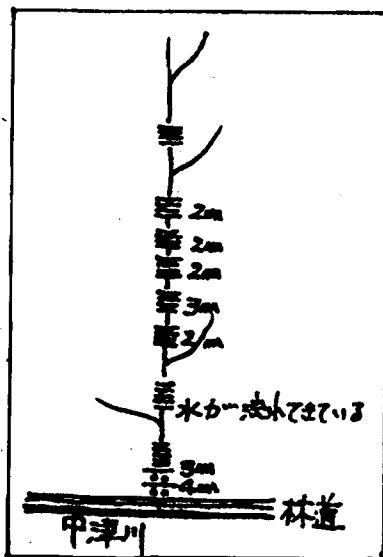
[タイム] 平ノ沢出合(9:45)→二俣(10:00)→遡行終了(10:20)

大 沢

1985年10月19日

L:

中津川林道ゲートに車を置いて、林道を歩く。毎度のことながら、ゲートの存在がうらめしく感じられて仕方がない。30分程で大沢出合。



林道からの取り付きは、いきなり4m, 3mと続く2段滝である。水が一滴もないカレ沢であるが、高橋さんのためにザイルを使用して登る。上はナメとなっていた。

15分程歩くと水が出てきた。出合から全部岩盤であるのに、水はどこへ消えてしまうのだろう。不思議である。

この先もナメの連続である。藪になってきたあたりで遡行終了とし、山の神沢右俣の下降めざして右岸の藪こぎを開始する。 (記・)

[タイム] 林道ゲート(14:30)→大沢出合(15:00)
→遡行終了

山の神沢左俣

1985年7月21日

L:

中津川林道にかかる橋を降りて沢に入る。3mのチョックストーンを越すと砂状の河原となり、沢は蛇行している。つづいて灰青色のナメ床となる。やがて沢幅が広がり、左岸から10m程のナメ滝をかけて左俣が合流する。

小滝を境にナメ床の色が茶褐色に変わる。広々としたナメ床をのんびり行くと、5m程の幅広い滝が現われる。水は左側をS字状に流れていて、なかなか趣のある滝だ。左岸には15m程のカレ滝がかかっている、ここだけは茂庭の沢らしから

ぬ光景を呈している。私はきばって左側の水際を登ったが、ほかの二人には安全な右側を登ってもらった。

ここから上は一転して藪っばい河原となり、そのまま二俣となる。水量の多い右沢に入る。

しばらく河原をゆくと、ちょっとした広場となった。左岸は台地状の雑木林となっている。ここを過ぎると、沢は蛇行する堀のような狭い藪沢となる。倒木でつまった滝を越すと、狭いながらも滑状の沢筋となった。

このまま終わるのかなと思いながら登ってゆくと、急に沢がひらける。一瞬、中州かと思ったが、よく見ると滝ではないか。7m程の広い赤滑滝だが、その中央部には立派な(?)藪が発達していて、その両側を水が2条に流れていたのだった。

この上もずっと滑床が続いていたが、高度を上げるほどに狭くなり、加えて藪がひどくなっていった。

(記・)

[タイム] 出合(14:45)→遊行終了(17:25)

支沢

山の神沢右俣(下降)

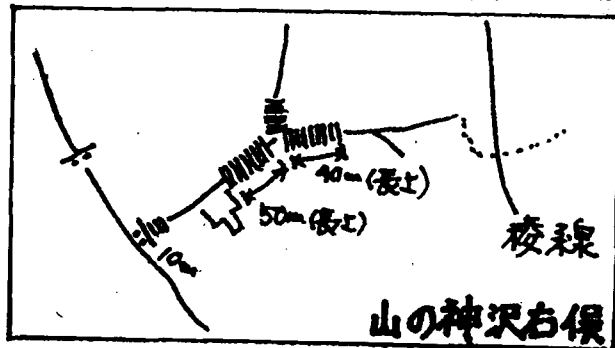
1985年10月19日

L:

和

大沢遊行終了後、稜線より山の神沢右俣の源頭部めざして下降する。しばらく藪をこいで、沢の頭に出る。

かなりの急勾配で下降していくと、長いナメ床の下りとなった。このナメ床は山の神沢左俣出合まで連続し、左俣出合には10mのナメ滝のおまけ付きであった。



左俣出合に着いたあたりから、雨がポツリ、ポツリと降り出してきた。帰路を急ぐことにする。(記・)

[タイム] 稜線(15:40)→下降開始(15:45)→左俣出合(16:00)

